

変更前

パブリックコメントでのご指摘

- パブリックコメントにて、「写真の具体例がそれぞれどこなのか場所が不明」というご意見をいただきました。

その他、変更の要因

- 特になし

<パブリックコメント時にご提示した案>

5. 分野別まちづくりの方向性

○住環境・コミュニティ

千代田区全体の上位計画 (都市計画マスタープラン)

～豊かな都心生活と住環境を守り、育てるまちづくり～

これからのまちづくりの視点・論点

- 人口回復と高齢化に伴う子育て世帯、高齢者、障害者の生活支援機能
- 感染症への対応や耐震化、低炭素・スマート化等、住宅の質の向上と高経年マンションの機能更新・適正管理
- 職住融合などライフスタイルにあわせた住宅・住まい方
- リノベーションやシェアリング、コワーキングによる都心生活の多様性
- 様々なスタイルでつながる新しいスタイルのコミュニティ
- まちで生活し、まちづくりに関与する多様な人の当事者意識と自負心 (シビックプライド)

これからのまちづくりの課題

- 人口増加、特にファミリー世帯の増加、高齢化に対応した高質な居住環境の充実
- 町会・商店会などと都心に集まる人の多様な活動が融合し、都心生活の魅力を豊かにするコミュニティの力の醸成

方針・取組み

- 方針1 多様なライフスタイル・ライフステージに応じて住み続けられる機能の充実
- 方針2 都心生活を豊かにする柔軟な建物利用
- 方針3 持続的・創造的なコミュニティを醸成するまちづくり

地域に関わる方々による現状認識

住環境・コミュニティ

- ✓ 地域の交流を促進するために、まちの更新にあわせて生活利便施設などの整備を推進してほしい。
- ✓ スーパーや広場などが整備されることで、住民同士の新たな接点生まれている。
- ✓ 長年住み続けられるようなまちづくりをすれば、神田らしさは残るのではないか。
- ✓ 新しく神田へ移り住んだ住民 (マンション住民等) と地域との接点づくりに工夫が必要である。

関連データ 神田公園地域の人口は、平成10～30年で約1.4倍増 (子ども (0～14歳) の割合は、千代田区全体を1としたときの比率が0.69)

- ✓ エリアマネジメント組織のような気軽にまちづくりに関わることができる仕組みがあるといい。
- ✓ 町会の役割をどのように継承していくかが大きな課題である。

まちづくりの方向性

- ・ “住み続けたいまち”を旨とし、ライフスタイルにあわせた豊かな居住環境 (多様な住宅、生活利便施設等) の整備を推進する
- ・ 住民が相互に関わるきっかけをつくり、新たなコミュニティの担い手を育成する
- ・ 神田のまちの営みをつなぐために様々な主体 (住民・ワーカー・学生・来訪者・企業等) が関わりやすい環境をつくる

取組み、機能・活動の具体例



目的意識を合わせたり、何気なく交流したりできる空間
 住民同士の接点にもなる店舗等
 様々な主体が気軽に地域と関わり合える環境 (空間の整備・仕組みの構築等)
 まちの営みの維持・発展のために一踏多用される空きビル・空地等

変更後

事務局としての対応案

- 各写真のうち、空間に関係するものについては撮影場所の名称を追記しました。
※P.8、P.9～15についても同様の修正をしています。

<修正した案>

5. 分野別まちづくりの方向性

○住環境・コミュニティ

千代田区全体の上位計画 (都市計画マスタープラン)

～豊かな都心生活と住環境を守り、育てるまちづくり～

これからのまちづくりの視点・論点

- 人口回復と高齢化に伴う子育て世帯、高齢者、障害者の生活支援機能
- 感染症への対応や耐震化、低炭素・スマート化等、住宅の質の向上と高経年マンションの機能更新・適正管理
- 職住融合などライフスタイルにあわせた住宅・住まい方
- リノベーションやシェアリング、コワーキングによる都心生活の多様性
- 様々なスタイルでつながる新しいスタイルのコミュニティ
- まちで生活し、まちづくりに関与する多様な人の当事者意識と自負心 (シビックプライド)

これからのまちづくりの課題

- 人口増加、特にファミリー世帯の増加、高齢化に対応した高質な居住環境の充実
- 町会・商店会などと都心に集まる人の多様な活動が融合し、都心生活の魅力を豊かにするコミュニティの力の醸成

方針・取組み

- 方針1 多様なライフスタイル・ライフステージに応じて住み続けられる機能の充実
- 方針2 都心生活を豊かにする柔軟な建物利用
- 方針3 持続的・創造的なコミュニティを醸成するまちづくり

地域に関わる方々による現状認識

住環境・コミュニティ

- ✓ 地域の交流を促進するために、まちの更新にあわせて生活利便施設などの整備を推進してほしい。
- ✓ スーパーや広場などが整備されることで、住民同士の新たな接点生まれている。
- ✓ 長年住み続けられるようなまちづくりをすれば、神田らしさは残るのではないか。
- ✓ 新しく神田へ移り住んだ住民 (マンション住民等) と地域との接点づくりに工夫が必要である。

関連データ 神田公園地域の人口は、平成10～30年で約1.4倍増 (子ども (0～14歳) の割合は、千代田区全体を1としたときの比率が0.69)

- ✓ エリアマネジメント組織のような気軽にまちづくりに関わることができる仕組みがあるといい。
- ✓ 町会の役割をどのように継承していくかが大きな課題である。

まちづくりの方向性

- ・ “住み続けたいまち”を旨とし、ライフスタイルにあわせた豊かな居住環境 (多様な住宅、生活利便施設等) の整備を推進する
- ・ 住民が相互に関わるきっかけをつくり、新たなコミュニティの担い手を育成する
- ・ 神田のまちの営みをつなぐために様々な主体 (住民・ワーカー・学生・来訪者・企業等) が関わりやすい環境をつくる

取組み、機能・活動の具体例



目的意識を合わせたり、何気なく交流したりできる空間
 住民同士の接点にもなる店舗等
 様々な主体が気軽に地域と関わり合える環境 (空間の整備・仕組みの構築等)
 まちの営みの維持・発展のために一踏多用される空きビル・空地等

変更前

パブリックコメントでのご指摘

- 特になし

その他、変更の要因

- 一部の写真について、他地区の事例を使用していましたが、可能な限り方針エリア内の事例を掲載すべきと考えました。

<パブリックコメント時にご提示した案>

○防災・安全安心

千代田区全体の上位計画 (都市計画マスタープラン)

～災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり～

これからのまちづくりの視点・論点

- 都市の中核機能と都心生活の継続性 (自立分散型エネルギーの確保や都市基礎の強靱化)
- 個別建築・開発を通じた地域全体の防災水準の向上
- 高齢マンションの耐震化や地下街の浸水防止策などのまちの特性を踏まえた安全確保
- 企業、大学などの集積を活かした災害時に機能する協働の関係 (防災コンソーシアム)
- 高齢化やインフラの増加、都心に集積する人の多様性の中での安全確保と避難・救援
- 大規模災害を想定した復興事前準備など
- 新たな感染症への対策にも配慮した防災都市づくり

これからのまちづくりの課題

- 都心の高度な活動を支える都市基礎施設の強靱化と多重化
- 外国人を含む多様な滞在者の安全確保と適正な避難誘導
- 災害に対する脆弱性を踏まえた防災対策
- 広いエリアの防災性向上を担う拠点形成
- 迅速で的確な災害対応のための事前準備

方針・取組み

- 方針1 復興事前準備の確立
- 方針2 災害時の円滑な防災活動と都心生活の継続性の確保
- 方針3 まちの防災対策の推進
- 方針4 都市基礎・都市中核機能の自立性・継続性の確保

地域に関わる方々による現状認識

防災

- ✓ 古くから神田の下町文化を支えてきた建物の多くが、災害時の倒壊などのリスクを抱えている。それらの建物を守っていくのが、更新するのか、個別オーナーの問題ではあるが、まちの課題でもある。
- ✓ 小さい敷地の地権者にとっては、大規模な再開発だけでなく、小規模な再開発を支援するシステムが必要である。
- ✓ 災害時に倒壊する建物、しなない建物が街区内に混在すると、その後の復興が難しくなる可能性もあるため、事前復興について検討しておくことが重要である。

関連データ 地域の車庫で建物倒壊危険度が高くなっており、ランク4の町丁目が存在 神田公園地域内、一ツ橋二丁目以外は、町丁目内で耐震建築物が占める割合が30%以上

安全・安心

- ✓ 区では在宅避難をすることになっているが、電気が途絶えると避難生活が困難になる。
- ✓ 災害対策を強化するとともに、エネルギーをまち全体でよりよく使える仕組みを導入できないか。
- ✓ 古くから住んでいる関係者が避難所を開設している状況であり、災害時の連携携や、土日の対応など、行政・企業・町会の役割分担の適正化等を図るための防災に関するコミュニティの検討が必要である。

まちづくりの方向性

- ・ 更新期を迎えた建物の安全性の確保や先端的技術の導入、災害時に行政・企業・町会等が相互に機能する防災コミュニティの検討等により、まちの防災機能を強化する
- ・ 昼間人口比率が高いことを踏まえ、拠点整備と合わせて帰宅困難者対策を推進する
- ・ 平常時だけでなく、災害時の利用にも対応できるオープンスペース等を整備する

取組み、機能・活動の具体例



変更後

事務局としての対応案

- 対応可能な範囲で、方針エリア内での事例に更新しました。

<修正した案>

○防災・安全安心

千代田区全体の上位計画 (都市計画マスタープラン)

～災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり～

これからのまちづくりの視点・論点

- 都市の中核機能と都心生活の継続性 (自立分散型エネルギーの確保や都市基礎の強靱化)
- 個別建築・開発を通じた地域全体の防災水準の向上
- 高齢マンションの耐震化や地下街の浸水防止策などのまちの特性を踏まえた安全確保
- 企業、大学などの集積を活かした災害時に機能する協働の関係 (防災コンソーシアム)
- 高齢化やインフラの増加、都心に集積する人の多様性の中での安全確保と避難・救援
- 大規模災害を想定した復興事前準備など
- 新たな感染症への対策にも配慮した防災都市づくり

これからのまちづくりの課題

- 都心の高度な活動を支える都市基礎施設の強靱化と多重化
- 外国人を含む多様な滞在者の安全確保と適正な避難誘導
- 災害に対する脆弱性を踏まえた防災対策
- 広いエリアの防災性向上を担う拠点形成
- 迅速で的確な災害対応のための事前準備

方針・取組み

- 方針1 復興事前準備の確立
- 方針2 災害時の円滑な防災活動と都心生活の継続性の確保
- 方針3 まちの防災対策の推進
- 方針4 都市基礎・都市中核機能の自立性・継続性の確保

地域に関わる方々による現状認識

防災

- ✓ 古くから神田の下町文化を支えてきた建物の多くが、災害時の倒壊などのリスクを抱えている。それらの建物を守っていくのが、更新するのか、個別オーナーの問題ではあるが、まちの課題でもある。
- ✓ 小さい敷地の地権者にとっては、大規模な再開発だけでなく、小規模な再開発を支援するシステムが必要である。
- ✓ 災害時に倒壊する建物、しなない建物が街区内に混在すると、その後の復興が難しくなる可能性もあるため、事前復興について検討しておくことが重要である。

関連データ 地域の車庫で建物倒壊危険度が高くなっており、ランク4の町丁目が存在 神田公園地域内、一ツ橋二丁目以外は、町丁目内で耐震建築物が占める割合が30%以上

安全・安心

- ✓ 区では在宅避難をすることになっているが、電気が途絶えると避難生活が困難になる。
- ✓ 災害対策を強化するとともに、エネルギーをまち全体でよりよく使える仕組みを導入できないか。
- ✓ 古くから住んでいる関係者が避難所を開設している状況であり、災害時の連携携や、土日の対応など、行政・企業・町会の役割分担の適正化等を図るための防災に関するコミュニティの検討が必要である。

まちづくりの方向性

- ・ 更新期を迎えた建物の安全性の確保や先端的技術の導入、災害時に行政・企業・町会等が相互に機能する防災コミュニティの検討等により、まちの防災機能を強化する
- ・ 昼間人口比率が高いことを踏まえ、拠点整備と合わせて帰宅困難者対策を推進する
- ・ 平常時だけでなく、災害時の利用にも対応できるオープンスペース等を整備する

取組み、機能・活動の具体例

